2 Rd.
MAY 2012

Japan RACING PRESS

2012 SUPER GT ROUND2
FUJI SPEEDWAY

FUJI GT 500Km RACE
5/3–4

Editor
吉川絹恵

Special Text
島村元子

Photo
鉄谷康博
加藤智充
中村佳史
近江　勤

スタート5分前の雨！大混乱のサバイバル戦！

スーパーGT第2戦は「富士GT500kmレース」は5万7000人を超える大観衆の中で開催された。毎年、様々のドラマが生まれるこのレースは2008年以来4年ぶりに本来の500kmへと戻り世界でも屈指のロングストレートを誇る超高速サーキットでレクサス、ホンダ、ニッサンという国産3メーカによるGT500と世界標準のFIA-GT3が大量参戦するGT300が高速かつ耐久性の強い富士で激しいレースを展開した。予選は激しい雨から小雨に変わるコンディションで行われGT500ではホンダHSVのチーム中嶋（道上龍／中山友貴組）、GT300ではチームゲイナーのAudi R8（田中哲也／平中克幸組）が獲得。決勝は前代未聞のサバイバル戦となり、スタート直前に雨、その後ドライ、大クラシュ事故、最後に再び雨という過去に例を見ない悪いコンディションの変化を無難に走りきったのは予選3番手で39号車DENSO KOBELCO SC430をドライブする脇阪寿一／石浦宏明組。残り5周でトップに浮上した39号車は石浦のドライビングで04年以来となる8年ぶりの勝利をトヨタのお膝元、富士で飾った。2位には100号車が岡山国際に続き連続で入賞。

LEXUS SC430 SARD 8年ぶりの優勝!

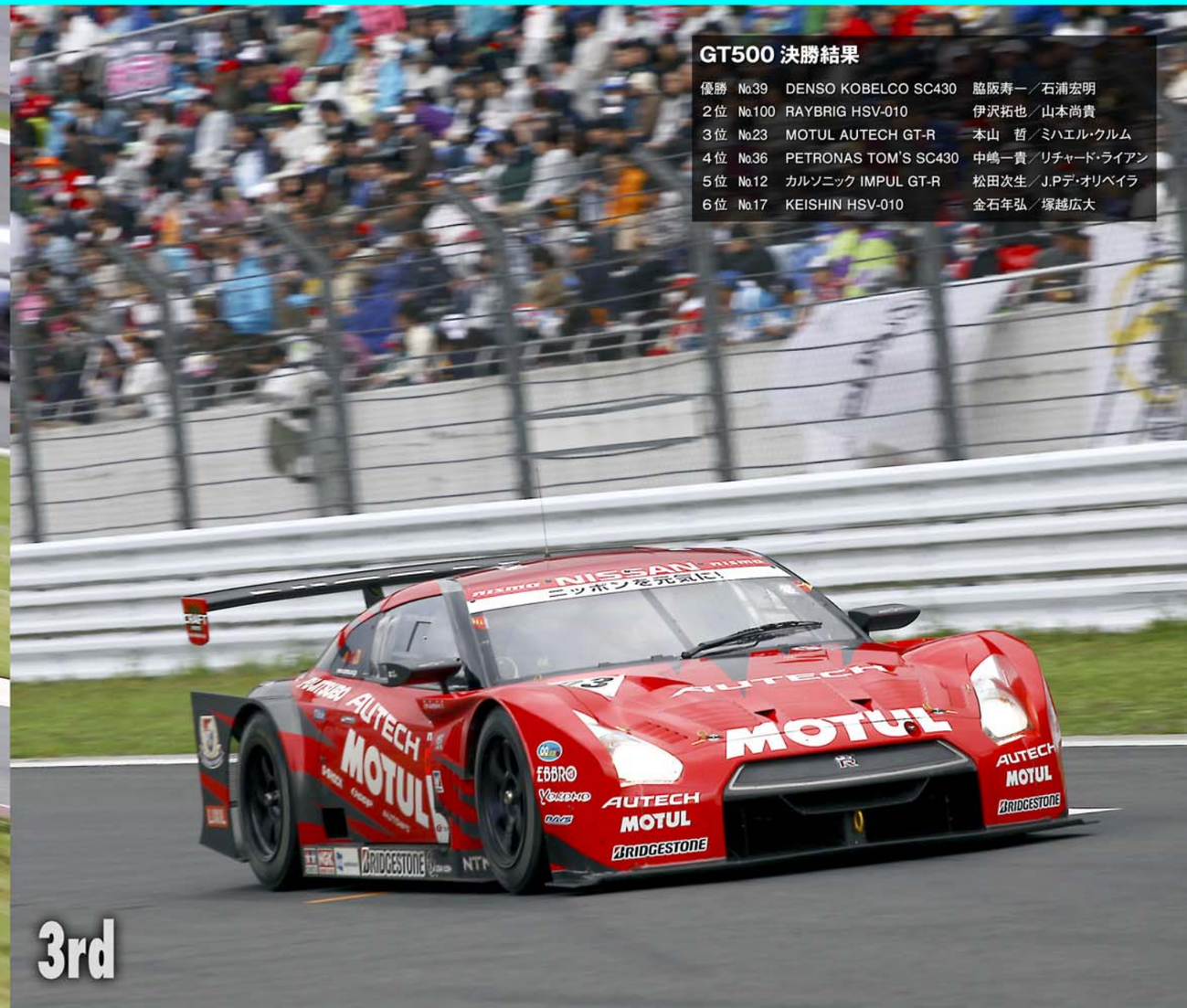
No.39 DENSO KOBELCO SC430 J.WAKISAKA/H.ISHIURA

WINNER

GT500

100号車RAYBRIGは開幕戦に続く連続2位でポイントリーダーに！
23号車MOTUL GT-Rは手堅く3位。

2nd



3rd

GT500 決勝結果

優勝	No.39	DENSO KOBELCO SC430	脇阪寿一／石浦宏明
2位	No.100	RAYBRIG HSV-010	伊沢拓也／山本尚貴
3位	No.23	MOTUL AUTECH GT-R	本山　哲／ミハエル・クルム
4位	No.36	PETRONAS TOM'S SC430	中嶋一貴／リチャード・ライアン
5位	No.12	カルソニック IMPUL GT-R	松田次生／J.Pデ・オリベイラ
6位	No.17	KEISHIN HSV-010	金石年弘／塚越広大

初音ミクBMW 今季初優勝！

GT300

0号車はトップで片岡が谷口にバトン。しかし500クラスのマシンにぶつけられ3位に後退、終盤の雨は恵みの雨となり谷口が怒りの激走で荒れた第2戦を今季初勝利を飾った。

エヴァンゲリオン紫電は予選17位から見事に2位入賞。
アストンマーチンV12バンテージGT3はデビュー戦を3位表彰台。

GT300 決勝結果

優勝	No.0	GSR初音ミクBMW	谷口信輝／片岡龍也
2位	No.2	エヴァンゲリオンRT初号機アップル紫電	高橋一穂／加藤寛規
3位	No.66	triple a vantage GT3	吉本大樹／星野一樹
4位	No.43	ARTA Garaiya	高木真一／松浦孝亮
5位	No.11	GAINER DIXCEL R8 LMS	田中哲也／平中克幸
6位	No.31	apr HASEPRO PRIUS GT	新田守男／嵯峨宏紀

THE TEAM

CLOSE-UP

Team GSR & Studie with Team UKYO

Text by M.Shimamura

Photo:Y.Tetsutani／T.Kato

元祖「痛（イタ）車」はディフェンディングチーム！

BMW Z4 GT3の車両本体に描かれたアニメーション。というよりも、今や「初音ミク」が一人歩きしても不思議でないほどの超有名なレーシングカーで参戦中なのが、GSR&Studie with Team UKYOだ。グッドスマイルレーシングと、BMWのショップを展開するスタディ、そして元F1ドライバーとして名を馳せた片山右京率いるTeam UKYOがコラボし、昨シーズンはGT300シリーズチャンピオンに輝いた。本来、レーシングカーたるものシブいか、カッコいいか、ふたつにひとつみたいなカラーリングが主流であったが、この初音ミク号がデビューを果たすと、モータースポーツシーンの中で“何か”が弾けたのか、その後は様々な形でいわゆる“痛車”の影響が出始めている。レースとはほとんど縁もゆかりもなかったかのような、“おタク”な人々がサーキットに集い、チームパドックの裏でオフミーティング状態。なにしろ、チームコンセプトが「ファンと共に走るレーシングチーム」であるため、個人スポンサーも数多く存在する。彼らはそれぞれ個人の予算に合わせたコースに加入、彼らだけに与えられる限定の特典、ーピットへの招待、オリジナルステッカーなどを手にすることができる仕組みになっている。中には、クラッシュパーツをオークションで入手するという一風変わったサポートシステムも用意されており、これまでのレーシングチームが思いつかないような大変ユニークな方法でチーム運営を行っている。

GSR 初音ミク BMW

Driver Nobuteru TANIGUCHI/Tatsuya KATAOKA

まさにファン心理をとてもよくフォローしたスポンサー制度に支えられ、ディフェンディングチャンピオンの谷口信輝は、今シーズンさらに最強の体制でレースをすべく、パートナーに片岡龍也を迎え入れた。FIA GT3車両が多数参戦し、BMW Z4にとってはライバル増加のハードな戦いが続くが、チームではさらにもう1台を新投入。てこ入れを計っている。今シーズン、サーキットを席巻中のミク号に注目だ！